

# 女子衣服生活に対する消費科学的考察 (第1報)

(女子学生のアンケート集計報告)

荒井 純子・大江 チエ・樋口 めみ (聖徳栄養短大)  
井上 民子・谷島 久以

Scientific Consideration about Women's Consumption on Garments  
The case of junior college girls

Ayako ARAI, Chie OHE, Emi HIGUCHI (Seitoku Eiyo Junior College),  
Tamiko INOUE and Hisai YAJIMA

We have made this survey in order to know how the girls dress themselves and to make sure what to do to make the students consume wisely.

The objects of our survey were 700 junior college students and as many housewives. We sent them questionnaire paper, 83% of which came back with their answer. Here we first report the outcome of those students and try to make some considerations.

The items of our survey were as follows; (1) how often they get new clothes, (2) their interest in fashion, (3) money spent in their clothes, (4) ready-made clothes (size, kind, students' contentment and hope), (5) order-made clothes, (6) sewing tools and etc.

Now that our garments have grown more and more multitudinous in accordance with the rapid change of our society, we consumers must be wise enough to demand the producers adequately and at the same time we must deeply think how to instruct the students to be wise consumers.

## 調査の目的及び方法

近代の技術革新によって、衣料産業の発展がうながされて来て、生産システムの確立や、自動化、省略化は生産向上となり、安価で品質の良いすぐれた衣料品を供給することによって、衣生活の合理化に大きな影響を与えている。既製衣料品の生産は綿密な市場調査により、社会の動き、流行の移り変わりをつかみ、専門家によるデザイン及び材料の選定、高度な裁断及び縫製の技術を駆使した工業的な生産過程を経て、複雑な流通経路を通し一般消費者への利用がなされるのである。又ホームソーイングのための実物大のパターンが数々売り出されるようになり、このような急激な社会変化に対応して衣服が多様化されて来た現在、女性の衣生活の状態を把握し消費生活に対処できる学生指導を、如何に行ってゆくべきかを知るためにこの調査を行った。

実施方法は、アンケート用紙を配布し解答を求めた。今回はそのうちの女子短大生の集計を報告する。

対象及び環境 (図1)

対象 18才～20才 女子学生 700名  
 回収率 83%  
 調査年月 昭和48年7月～10月

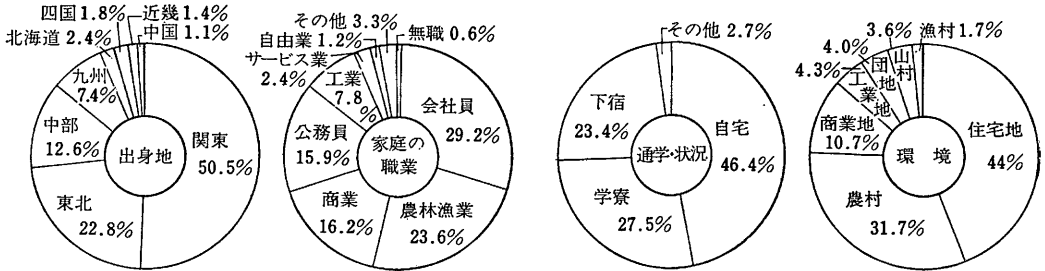


図 1. 対象及び環境

調査内容及び考察

1. 年平均新調度

表 1. 年平均新調度

種類 \ 枚数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10枚以上	無解答
スーツ	30.1	39.0	10.8	0.7	0.7	0.7						18.0
ワンピース	5.5	22.8	33.6	11.8	3.6	3.6	1.8		0.6			16.7
スカート	2.6	5.8	21.8	24.4	11.0	11.9	3.5	2.9	0.8		1.3	14.0
ブラウス	2.0	5.3	18.6	19.0	15.0	14.2	4.4	1.5	0.6	0.6	2.6	16.2
セーター	3.9	8.0	21.4	28.0	9.5	9.5	2.1	1.2				16.4

衣服の年平均新調度は、表に示す通りである。スーツは新調1枚の人が(39.0%)、ワンピースは2枚の人が(33.6%)と多く、スカート、ブラウス、セーター等は、3枚の人が多いという結果が出た。これらは昭和42年度に調査したものとほとんど変わらなく、学生の服装は主として、ブラウス、スカート、セーターのツーピースであるということがわかる。

2. 外出着, 日常着の新調状況

外出着が、(58.5%)と多く、日常着は、(36.4%)であった。この結果外出着の古くなったものを、日常着にするのではないかと思う。

3. 購入する場所

デパートが(62.1%)、洋品店が(31.0%)であった。

4. 選ぶ時 (図2)

選ぶ時については、ブラウス、スカート、セーター等は、自分又は友達と選ぶのが圧倒的に多く、スーツ、ワンピース等は親と選ぶ人が多いようである。

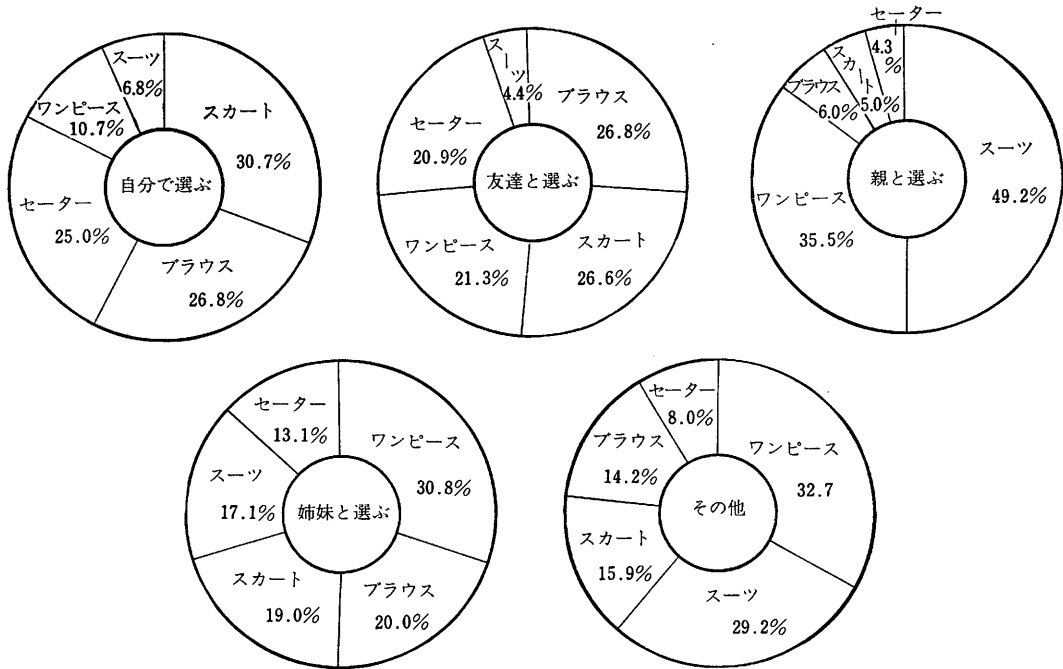


図 2. 選ぶ時の方法

5. 洋服を新調する時の方法 (図3)

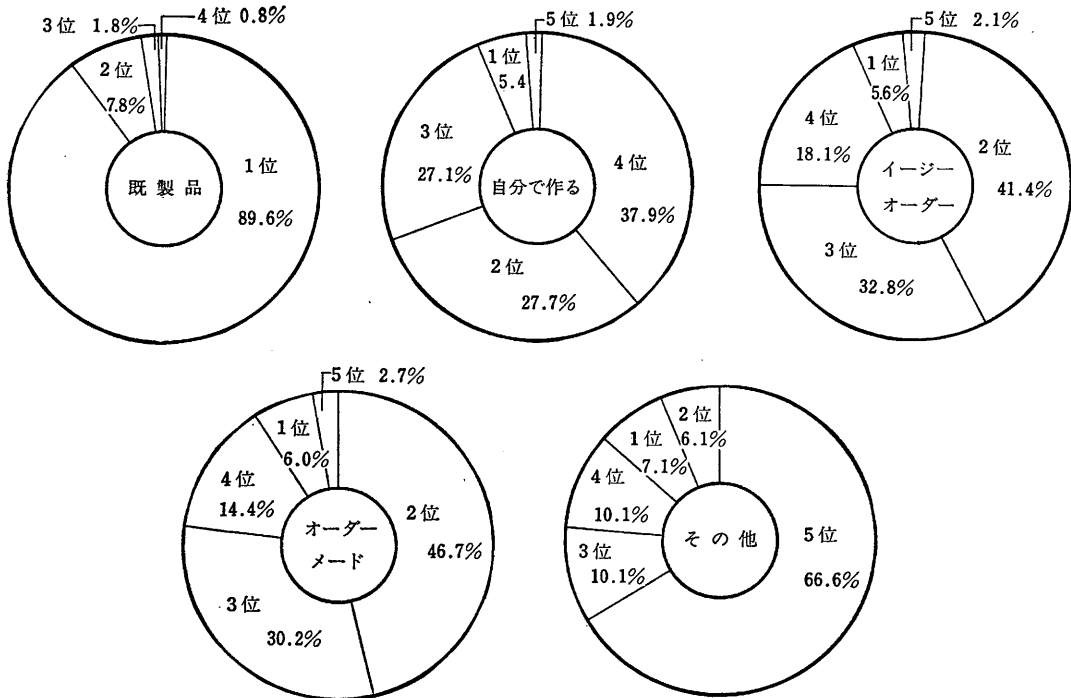


図 3. 洋服を新調する時の方法

既製品が (89.6%) と最も多く、次いでオーダーメイド、イージーオーダー、自分で作る、その他となっている。昭和42年度の調査では、既製衣料品を使用する人よりもオーダーメイドを使用するの方が高い割合を示していた。

### 6. 服の型, 色を選ぶ時

服の型, 色を選ぶ時何を参考にして決めるかについては、スタイルブックを参考にする人が (38.9%), 自分で考える人が (38.4%), 雑誌・週刊紙等が (10.1%), アドバイスによる人が (10.4%) という結果がでた。スタイルブックを参考にする人と自分で考えるという人が、ほとんど同数であるということは、スタイルブック等を参考にして自分でデザインする者が多いように思われる。

### 7. 流行について

流行については、少しとり入れる者が (86.6%) で圧倒的に多く、全く考えない者が (6.3%), 大いにとり入れる者が (5.4%) となっている。この結果あまり流行に左右されないで、部分的に上手にとり入れて個性を生かした堅実な所を、進んでいるとみてよいと思う。

### 8. バーゲンセールの利用について

バーゲンセールの利用の仕方については、大いに利用する者 (23.6%), 時々利用する者 (68.5%). 全く利用しない者 (6.0%) でバーゲンセールを利用している人は (92.1%) もいるということになる。これはバーゲンセールの回数が増したこともあるが、バーゲンセールの商品に良い品が多くなったということも考えられる。

### 9. 既製品を購入するとき

非常に多く利用されているという結果の出た既製服について更に掘り下げ、その仕立てについて意見をまとめて見た。

#### (1) メーカーについて

購入の際にメーカーを意識して選択するもの (44.6%), 意識せずに選択するもの (45.4%), である。

#### (2) 購入サイズについて (図4)

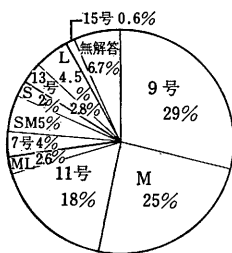


図4. 購入サイズ

品質に依り表示方法に違いがあり、アルファベット及び数字の表示が混用されていて集計が煩雑となったので、類似しているものをまとめて集計を行った。その結果は図に示す如く、9とM (54.0%), 11とML (20.6%), 7とSM.S (11%), 13とL (7.3%), 15 (0.6%) と約半数が平均サイズであった。

#### (3) 現状のサイズをどう思いますか。

この質問に対して、不足に思う者 (62.0%) 満足している者 (32.0%), と不足に思っているものが、満足に思う者の倍もあった。

(4) どの様な物を既製品として購入しますか多いものから順に5種書いて下さい。(図5)

図のように1位に選ばれたブラウスは (30.7%), スカート (30.0%), セーター (10.8%), Tシャツ (7.0%), ワンピース (6.0%), Gパン (2.0%), その他となり1位2位3位の状況を見るとどの表にも見られるものはブラウス, スカート, セーターである。これが上位を示しているのは学生が調査対象であるため通学服として機能的且つ求め易く着用上的変化がつけられ易い理由からと思われる。これは、衣服にかくことの出来ない重要な条件の機能性を重んじていることがうかがえた。

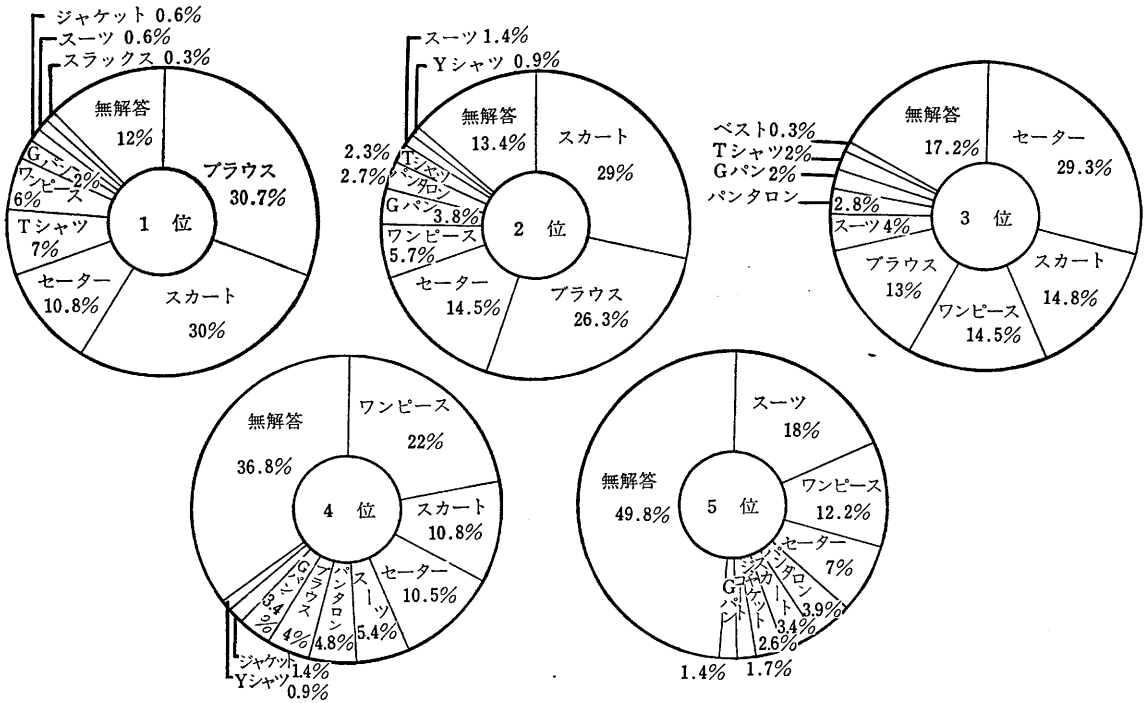


図 5. 既製品の購入順位

(5) 選ぶときの留意点 (図 6)

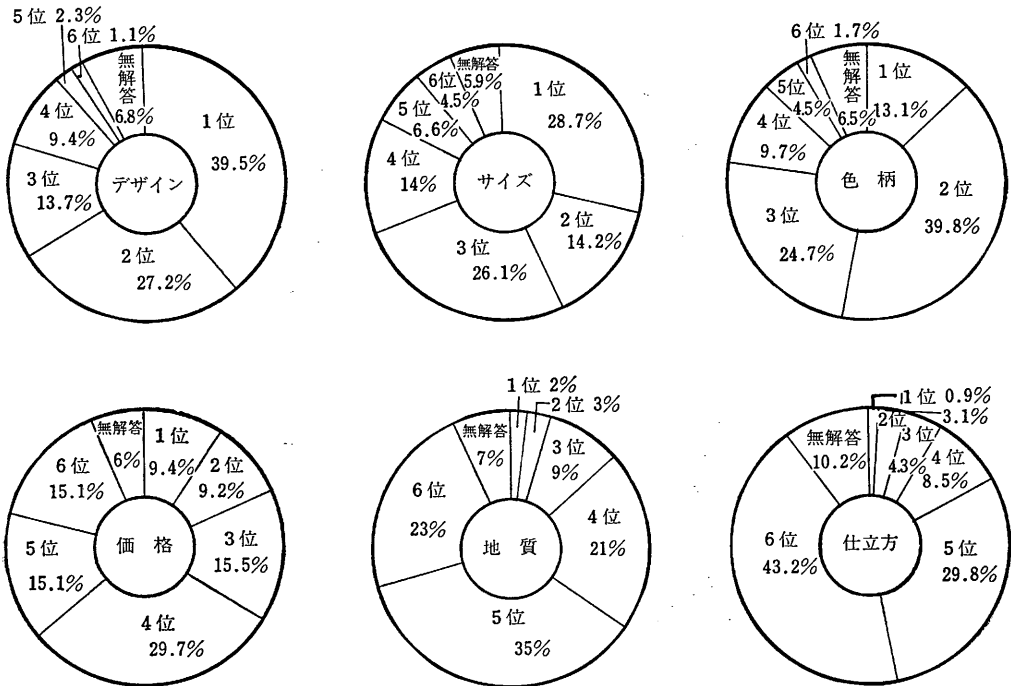


図 6. 選ぶときの留意点

(5) 選ぶときの留意点 (図6)

それぞれの項目で1位に選んだ割合は、デザイン (39.5%)、サイズ (28.7%)、色柄 (13.1%)、値段 (9.4%)、地質 (2.0%)、仕立方 (0.9%) と示された。デザインを1位に選んだものが一番多数の割合を示していることは、先に示された衣服の機能性を重要視していることと共にその審美性を重視していることの現れと思う。

10. 現状の既製服に対する満足度

不満に思っている者 (76.4%)、満足している者は (23.6%) となり、不満を持っているものが非常に多いことがわかった。

不満の内容

(1) 仕立方

仕立方に対する不満は、縫方が雑と思う (39.5%)、ボタン・スナップの付け方が雑と思う (33.5%)、縫代が少いと思う (14.0%)、その他、という結果であった。

(2) サイズについて

メーカーによって違うと感じた者 (43.0%)、サイズ数が少いと思う者 (28.0%)、体型が考えられていない (11.3%)、寸法が合わない (10.5%) でメーカーによって異なるということが多数の苦情となっていることがわかった。その他の意見としてあげられていることに標準外のタイプ、例えば「B・W・H のバランスの普通外」「巾と丈のバランスの悪いタイプの者」「L サイズにおいてもデザイン、地質、其の他が若向きの品を増す」等の希望を出していた。

11. イージーオーダーについて

出来上り結果を満足に思う者 (45.7%)、不満を感じているもの (54.3%)、という結果で不満を感じているものの数が多い。

不満の内容

仕上りがすっきりしない (41.4%)、デザインの種類が少ない (30.2%)、流行が取り入れられてない (9.5%)、縫方が雑である (6.9%)、縫代が少い (5.2%)、等で仕上りに対する不満、デザインの種類不足に対する不満が多い。

12. 自分で製作する場合

(1) その方法として

自分で型紙を作る人 (60.8%)、既成パターンを使う人 (31.3%)、他人に型紙だけ作ってもらう人 (7.9%)、で図3によると自分で衣服を製作する人は少いのであるが、現在既成パターンの利用がさげばれているのかかわらず自分で型紙を作る人が、既成パターンの利用者の倍に近い数を示していることは、学生が学校に於いてその教育を受けているためと思う。

(2) スタイル選定にあたり

洋装雑誌を利用する人 (58.3%)、スタイルブックを利用する人 (35.7%)、週刊誌を利用する人 (2.8%)、であった。

(3) 既成パターンについて

自分で製図する人の数が非常に多いが、既成パターンの利用者を更に調べた結果これを満足に思っているもの (27.7%)、不満に思っているもの (72.3%)、と非常に多数が不満を抱えていることが判った。

### 不満の内容

その内容はデザインの種類が少ない（43.8%）、寸法の種類が少ない（24.8%）、寸法が合わない（19.9%）、であった。

### 13. ミシンについて（図7）

縫製用具としてのミシンに就いて先づ機種別の使用状況から調べた結果は、ジグザグ（44.6%）、直線縫（38.6%）、又動力源別では電動（42.9%）、足踏み（51.2%）、であった。

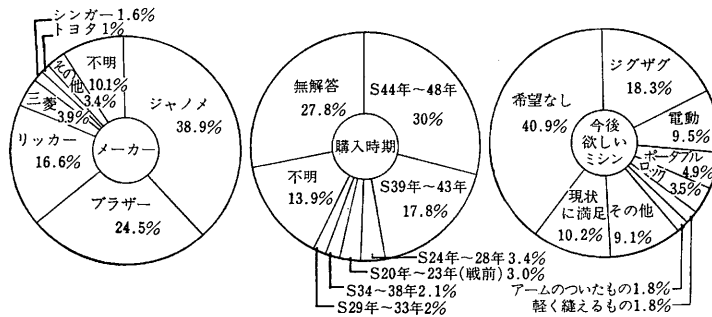


図 7. ミシンについて

上図はミシンの購入時期、メーカー、今後欲しい型、についての調査結果である。即ちその購入時期は昭和44年～48年が（30.0%）、39年～43年が（17.8%）、で比較的最近に購入したものが多いのは、学生が学校に入り必要になったためと思う。次に今後欲しいミシンの型に就いては約半数のものが図に示している如き希望を持っていたが、残りの半数は希望のないもの（40.9%）、現状に満足（10.9%）、であったことは、購入時期が最近であることに関係があると思う。

### ま と め

以上の調査結果をみると、既製衣料品の普及率の高いことがよくわかる。これは衣料産業の著しい発達の影響にあると察しられる。昔の安からう悪からうという既製のイメージがなくなり、高級なファッションまで手軽に楽しめる時代になって来たということにあると思う。既製の魅力としては、すぐ着られる、流行のものが手軽に手に入る、気に入ったものをでき上がった品の中から選べるということから、利用者の増して来たことが考えられる。既製服化の傾向がアメリカ並みに急上昇しつつある中でその利用者は、若年層に高くなっているということは、若い人の体型が標準化しやすいということと、若い人が経済的に豊かになって来ていることと考えられる。

又オーダーメイドも「自分に合ったもので、なおかつ自己主張ができる」ということで多く用いられているように感じる。しかしオーダーメイドは、オーダーメイドと既製服の中間的な存在であり、生地の素材の持味の表現とか、デザインが立体的に見られる等の利点があるにもかかわらず、その製作上に欠点も多い。デザインの種類を増し、仕上りをすっきりと出来上らせる様に工夫することにより、さらに利用度を高めることができないだろうか。

自分で作るという人が意外に少ないのが目立ったが、これは製作経験が少ないということにもなると思うが、対象が被服科の学生が多いため、時間的にゆとりがないということもあげられると思う。又既成パターンがいろいろなメーカーから数多く市販されているが、まだこれらに対する苦情も多いように思われる。従ってこの既成パターンが理想に近づいて来た時、これを利用して衣服を

作る人がもっと多くなると思う。仮縫をしなくても好みにあったデザインを簡単に作る事ができたら既製服を選ぶのと同様に利用されると思う。

昭和42年度の調査結果と比較した場合、流行を全くとり入れない人が(25.0%)もいたのに対し、昭和48年度には(6.3%)と減少している、これは世の中の流れに逆うことはできないということの現れであるということより、衣料産業の発達により流行にそった既製服が多く出まわることになったということ、社会の若年労働者不足のため高賃金高所得となり、若い人が経済的に豊かになり生活に余裕が出て来たということの現れであると思う。これらのことから流行のものが簡単にとり入れることができるようになったのだと察しられる。

又衣服はほとんどの場合、ドレッシーとか、女らしいとか、スポーティな服とかというイメージでとらえられる。そこで服のイメージを素材、生地、デザインとの関連からとらえてみると、あるイメージで描かれたデザインを実現するには、素材としての性質、それにのせられた色、柄さらには、消費者が抱いている服に対するイメージとのマッチが必要である。

このような関係をいろいろな服飾雑誌で調べてみると、衣服の説明のために用いた生地名、素材、並びに素材のイメージ、服のイメージ、デザインの特長が写真と共に説明されている。このような服飾雑誌が数多く出まわっているので手に入りやすく、又利用しやすいこともあって、感覚的に自分のものになって来ているように感じる。衣服には個人の嗜好が強く働くため服飾関係には、強い関心を示していることがうかがえる。

しかしこのように着る時代を迎えている中で、大学の被服立体構成指導の現状は、製作品の細目を通して理論と技術の習得を行い、指導方法は技術にたよる傾向が強く、集団指導の形をとりながら個人指導にならざるを得ない状態である。衣服製作には個人の嗜好が強く働くため、各人による好みのデザインの違い、使用する材料の質、色、柄の違い、又各人の体型の相違によって製作過程及び技術の多様化がさげられない。このため実習内容は個人別指導の傾向が強くなる。そして又、学生の経験不足による未熟練、学生間の技術差と能力差、実習時間数の不足と実習内容、学生の意欲、既製衣料品の利用等の問題点があり指導の徹底をむずかしくしているのである。

ブラウス1枚を製作するのに必要な時間を価格に換算したならば到底既製衣料品に太刀打ちは、できないのではなかろうか。このような社会的背景の中では、大学における被服教育もその内容が変わらざるを得ないと思われる。

やがては家庭の主婦となって直面する問題、即ち生活必需品の生産は、主婦自身の手で行なわれることがすべてではなく、市販されている商品をいかに上手に利用するかという、消費的立場からの管理技術も重要なものとなって来たと考えられる。

石油資源に対する諸問題が勃発して来た世界の状況は、合成繊維全盛となった繊維界にもその大きな余波が到来した。人間生活に欠かすことのできない衣生活において、その資源の不足、原料の高騰等に依り、高水準を示して来た我国の衣生活を貪しく落ち沈ませてしまうことのないよう合理的な工夫が必要と思う。このような消費生活にも対峙できるような指導を行ってゆくことも必要である。

若い年令層において既製衣料品が魅力的に考えられていることでも、まだ高年令層においては若干利用者が少いようである。1972年の衣生活6月号によると、アメリカでは全需要の(98.0%)が既製服でまかなわれているということだが、日本の現状においては、対象を一般とすると(80.0%)という結果がでている。これらの原因として考えられることに和服を主に着ている高年令層や、注文服、オーダー、家庭洋裁などの分野が相当であるという背景と直接的には、既製服業界自



荒井・大江・樋口・井上・谷島：女子の衣服生活に対する消費科学的考察（第1報）

身の問題，すなわち体型別サイズの不足や，企業が目ざすマーケットが若い人中心に片寄っていることや，小売店の販売政策の問題など種々原因があげられる。これらの問題を消費者の声として企業側に訴えて行くことが必要である。

今後このようなこともとりあげ研究して行きたいと考えている。終りに調査にご協力下さった，東京家政大学短期大学部・聖徳栄養短大の学生の皆さんに感謝いたします。

#### 引用文献

- 1) 短大被服コース縁苑祭研究発表報告 衣生活 11, 2, (1968)
- 2) スズ鈴木編婦人既製服デザイン 衣生活 15, 5, (1972)
- 3) 被服構成シリーズ No. 4 繊維製品消費科学会 (1973)